

「コンピュータアーキテクチャ（改訂5版）」第3刷→第4刷 変更箇所

ページ	3刷	4刷
p.29 式(1・12)	<p>※2行の表記を1行にする。</p> $\text{SPECint} = \sqrt[m]{\prod_{i=1}^m \text{SPECratio}_i} = \sqrt[m]{\prod_{i=1}^m \frac{t_{ref_i}}{t_{c_i}}} \quad (1 \cdot 12)$	
p.30 上から6～7行目	<p>時間 t でやはり設計どおりの動作をしている確率である。 一般に、初期故障期間を過ぎる…</p>	<p>時間 t でやはり設計どおりの動作をしている確率である。一般に、初期故障期間を過ぎる… ※行詰め</p>
p.30 上から10行目	故障の起きる時間間隔の平均を…	故障が起きるまでの平均稼働時間を…
p.30 上から13行目	すなわち、故障率が少ないほど MTTF は大きくなる。	【削除】
p.30 上から17行目 ※式(1・15)の後に追記	<p>なお、修復して再使用するシステムで用いる平均故障間隔時間 MTBF (Mean Time Between Failures) は、総稼働時間を総故障数で割ることで得られる。MTBF は、繰返し稼働して得た実測値から求めた平均稼働時間を表す。</p>	
p.30 下から11行目	MTTF と MTTR を用いると、…	平均稼働時間として MTBF を用いることにより、…
p.30 式(1・16) ※差替え	$A_s = \frac{\text{平均稼働時間}}{\text{平均稼働時間} + \text{平均修理時間}} = \frac{\text{MTBF}}{\text{MTBF} + \text{MTTR}} \quad (1 \cdot 16)$	
p.30 下から8, 7行目	MTTF	MTBF
p.30 下から1行目	(a) 全体の故障率を求めよ。	(a) 全体の真空管の故障率を求めよ。
p.31 上から1行目	(b) MTTF を求めよ。	(b) (a)を用いて MTTF を求めよ。
p.31 上から2行目	(c) MTTR を30分として可用性を求めよ。	(c) (b)で求めた MTTF を平均稼働時間として用い、平均修理時間を30分として、可用性を求めよ。
p.31 上から8行目	MTTF を大きくすることと、故障の検出から修理までの時間を短縮して MTTR を小さくすることが、…	平均稼働時間を長くすることと、故障の検出から修理までの時間を短縮して平均修理時間を短くすることが、…
p.37 【演習問題】	1・6 式(1・16)を求めよ。	【削除】
p.37 【演習問題】 ※番号繰り下げ	1・7 … 1・8 …	1・6 … 1・7 …
p.379 【演習問題解答】	1・6 …(全体)	【削除】
p.379 【演習問題解答】 ※番号繰り下げ	1・8 …	1・7 …
p.389～ 索引 ※索引項目追加	<p>【追加項目】 MTBF</p>	